

ベラルーシ公開情報取りまとめ

(9月21日～9月27日)

2021年10月15日
在ベラルーシ大使館

【主な出来事】

- マケイ外務大臣が国連総会に出席(9/21～9/28)
- 「世界のベラルーシ人大会」の開催(9/24、25 於:ビリニュス)

【ルカシェンコ大統領動静】

- パルホムチク産業大臣・ナザロフ副首相との会談
大統領は、要旨以下を発言。
 - ・政府が、制裁による経済への影響を最小限にするべく取り組んでいると承知。
 - ・とはいえ、国営企業の従業員に対する注意を怠らないこと。西側の特務機関がベラルーシの経済や国家を害させるために金をつかませているスパイが複数の企業に潜り込んでおり、産業大臣や産業担当副首相が制裁をいかに回避しようとしているかを西側に密告しているとの情報あり。何人かは摘発しているが、引き続き注意すること。(9/23 大統領府)

●国境の状況に関する会合

- ヴォルフオヴィチ国家安全保障会議書記、ラッポ国家国境委員会委員長、テルテリ国家保安委員会(KGB)委員長、クブラコフ内務大臣に対し、要旨以下を訓示。
 - ・国境を接する国々における状況は、我々にとって好ましくない。しかも、これらの国の指導者はベラルーシとの対決路線を採用している。
 - ・ウクライナでは教育訓練キャンプが開設され、ベラルーシを標的とする工作が行われている。これらは実際には米軍の基地であり、これに対応しなければならない。
 - ・本件につき、プーチン露大統領と何度も協議しており、何らかの行動を取らなければならないということで合意した。(9/27 大統領府)

【外交】

- マケイ外務大臣が国連総会に出席(9/21～9/28)
 - ・イラン・ニカラグア・トルコ・セルビア・ベトナム・モザンビーク・ジャマイカ・エストニア・シリア・ハンガリー・フィンランド各国の外務大臣と二国間会談を実施。

9/23

- ・「国連憲章を守る友好グループ」外務大臣会合に出席。同会合では、国連憲章で規定されている目標の推進に向けた多国間の取り組み強化を目的とする共同宣言が採択された。

9/24

- ・国連総会にて演説。考えもなく対ベラルーシ制裁が科されていることで、ベラルーシからカリ肥料の輸出が困難になり、世界的な食料安全保障に悪影響が出る旨発言。

- ・ヴォロンコフ国連事務次長兼国連反テロ事務所(UNOCT)所長と会談。双方は、テロ対策に関する問題を狭量な政治目的達成のために利用することは受け容れられない立場で一致。そのような行為は、対テロ分野における最新の問題に対応するための国際的な合意形成を進める上で障害になることが指摘された。

9/25

- ・グテーレス国連事務総長と会談し、国際的な課題につき意見交換。マケイ大臣は、ベラルーシの国内政治情勢や憲法改正の議論に関連する国内のプロセスの進展につき説明。
- ・マケイ大臣は、移民関連を含めベラルーシがリスクを引き起こしているとして特定の国々が虚偽の非難を行っている旨コメントし、ベラルーシ西部国境における実情及びベラルーシ側と駐ベラルーシ国連難民

高等弁務官事務所との緊密な連携につき述べた。

・また同大臣は、在ベラルーシ国連代表事務所の職員が、子どもや障害者のために抛出された国連の資金を反体制の抗議行動参加者への支持やその他の用途に利用していると指摘。

(9/22～27 外務省、国営ベルタ通信、国営 TV「ベラルーシ第 1 チャンネル」、Zerkalo)

●ドゥダ・ポーランド大統領が国連総会での演説においてベラルーシに言及(9/21)

・ドゥダ・ポーランド大統領は、ポーランドがベラルーシからの亡命者や出稼ぎ労働者を合計約 15 万人受け入れている旨述べた。

・同大統領は、ベラルーシで 650 人以上が政治的な理由で囚われていること、マリア・コレスニコヴァ氏やマクシム・ズナク氏などの反体制運動指導者に対して不透明な裁判の結果、重い刑が科されていること、政権と距離を置く在ベラルーシ・ポーランド人協会の幹部が投獄されていること等を指摘。

(9/22 ベラパン通信、Zerkalo)

●オストロヴェツ原発に対するリトアニアの動き

・9/22、リトアニア原子力安全検査局(VATESI)はベラルーシに対し、オストロヴェツ原発 1 号機の運転と 2 号機の運転開始に向けた準備の停止及び同原発の安全に関する問題の即時解決を要請。

・9/23、クレイヴィス・リトアニア・エネルギー大臣はウィーンで開催中の国際原子力機関(IAEA)総会の席上、ベラルーシがオストロヴェツ原発の運転開始を急ぐあまり、安全基準を遵守していない旨指摘した上で、安全・環境・原子力安全・放射線防護等の国際基準をベラルーシに確実に遵守させるよう国際社会に呼びかけ。

(9/22、23 ベラパン通信)

●在ベラルーシ・リトアニア大使館が亡命申請の受付を開始。

(9/22 ベラパン通信)

●第 48 回国連人権理事会の開催(於:ジュネーブ)

・バチエレ国連人権高等弁務官は、ベラルーシの人権状況が 2020 年の大統領選挙の前後から悪化しており、2021 年もその傾向が続いている旨指摘した上で、民間団体や非政府系メディアに対する捜査・閉鎖、人権活動家や記者に対する政治的理由による逮捕や刑事罰など、市民社会や基本的自由に対する厳しい制限への深い憂慮を表明。

・クヌツセン EU 代表はベラルーシ当局に対し、人権や基本的自由の尊重に関する国際的な義務を遵守し、政治犯を即時釈放し、弾圧に荷担した者の責任を問うよう要求。

(9/24 ベラパン通信)

【内政】

●非政府系団体・個人に対する捜査・閉鎖等

9/21

・ブレスト州経済裁判所は「インフォルム・プログルカ」紙(ブレスト州ルニネツ地区)に対し、ベラルーシの国益に損失をもたらした廉で 100 基本単位(2,900 ルーブル、約 13 万円)の罰金を宣告。

・9/20 から 9/21 にかけて、ヴィテプスク州ノヴォポロツク市で 3 名、グロドノ州グロドノ市で 3 名、ゴメリ州ジロビン市で 1 名に対する捜査や拘束が行われた。「ベラルーシ民主労働組合」は当局によるこうした攻撃に断固として抗議する旨声明。

9/22

・グロドノ州検察は同州のニュースサイト Hrodna.life 編集部に対し、昨年の大統領選挙の結果を否定的に報じたこと、治安機関の活動を誹謗したこと、同サイト編集者が過激主義的情報を拡散した廉で行政罰を科されていることを理由に、同サイトへのアクセス制限を通告。

9/23

・「リデル・プレス」紙(ミンスク州ソリゴルスク地区)が廃刊を発表。編集部は、地域や国内で生じていることを正直に報道すると過激主義に指定される恐れがある状況下で従業員を危険に晒すことはできず、廃刊せざるを得なくなった旨表明。

・国営「グロドノ窒素」、「ベラルーシ冶金工場(BMZ)、「ベラルーシ鉄道」でのストライキを呼びかけた 14 名が拘束される。

9/24

・最高裁判所は「世界ベラルーシ人会『バツィカウシチナ』」を閉鎖。
・内務省は情報サイト KYKY.by の Telegram チャンネルを過激主義に指定。
・モギリョフ州ポブルイスク市で大量拘束
(9/21～27 ベラパン通信)

【治安・軍事】

●ベラルーシから周辺国への不法移民の急増

全般

・9/21～27 にかけて、ポーランド国境隊は 188 件～359 件の不法越境を阻止した。
・同時期、リトアニア国境警備隊は 15 人～50 人の不法越境を阻止。
・同時期、ラトビア国境では 10 人～20 人の不法越境を阻止。同国でベラルーシとの国境地帯に緊急事態が宣言されて以降の不法越境阻止例は合計 1,392 件。

EU の動き

・9/21、国連総会での演説においてドゥダ・ポーランド大統領、ナウセダ・リトアニア大統領、レヴィッツ・ラトビア大統領は、ルカシェンコ体制が EU との国境地帯での難民による危機を創り出しているとして非難。
・9/26、ポーランド国境警備隊は、違法な越境を手引きしていた 6 人を逮捕。

ベラルーシ側の動き

・9/26、ヴォルフオヴィチ国家安全保障会議国家書記は、欧州に難民が流入していること責任は西側全体にあり、問題解決に向けた最初の一步として、西側の方からベラルーシ側との交渉を始めなければならない旨述べた。
・9/26、カルペンコフ内務次官兼国内軍司令官は、西側が受入を拒否してベラルーシに送還している難民は潜在的なテロリスト・過激派であり、背後では西側の特務機関がベラルーシ情勢を不安定化させようと暗躍している旨発言。

(9/21～27 ベラパン通信、国営「全国テレビ(ONT)、)

●上海協力機構(SCO)の対テロ演習への参加

(9/20～24)

・露オレンブルク州ドンズ演習場での演習に、ベラルーシ、ウズベキスタン、カザフスタン、キルギス、タジキスタン、中国、インド、パキスタン各国からの合計 5,500 人が参加。
・国際テロ組織が使用している新たな戦術への対抗、無人航空機(UAV)や生物・化学兵器を使用したテロへの対策等の演習を実施。
・9/23 には演習の実働部分及び SCO 加盟国軍参謀総長会合を開催。ベラルーシからはグレヴィチ国防第一次官兼参謀総長が出席。
(9/20 国防省、ベラパン通信)

●銃器と銃弾の自給に向けた取り組み

国家軍需産業委員会によれば、本取り組みはベラルーシに対する脅威ではなく西側による対ベラルーシ制裁を意識したもの。自動小銃 4 種、狙撃銃 3 種の独自改良、狩猟用カービン・ライフル 7 種を既に開発済み。
(9/25 Zerkalo)

【経済】

●Standard & Poors の格付:B/ネガティブ

・9/20、国際的な信用格付機関 Standard & Poors がベラルーシ国債の格付を発表。中長期・短期の格付は、外貨建て・自国通貨建てともに B(当館注:9 段階中の 6 で投機的)。展望は「ネガティブ(弱含み)」。
・格付け・見通しの設定にあたっては、対ベラルーシ制裁、政治的危機の継続、ロシアによる経済的支援の先行きの不透明さ等を考慮。
(9/20 ベラパン通信、Zerkalo.io)

●国際原子力機関(IAEA)総会へのベラルーシ代表団の出席(9/20～24、於:ウィーン)

(1)パキスタンに原子力分野での協力を提案
・9/21、カランケヴィチ・エネルギー大臣がムハンマ

ド・ナウム・パキスタン原子力委員長と会談した際に提案。

・同大臣は、ベラルーシの原発が露国営「ロスアトム」による第3世代+のロシア型加圧水型原子炉の欧州で最初の建設例であること、バングラデシュ・ハンガリー・エジプト・トルコ・ウズベキスタン等がベラルーシにおける原発建設の知見を研究していること等を指摘。
(2) ルゴフスカヤ非常事態省原子力・放射線安全局長は、ハンガリー・ナイジェリア・ロシア・トルコの原子力規制機関と二国間会談を実施。

(9/21、23 エネルギー省、ベラパン通信)

●チェルヴァコフ経済大臣は 2022 年の国内総生産 (GDP) 成長率目標を 2.9%と発表。

チェルヴァコフ大臣はこの目標実現のための手立てとして以下を列挙。

- ・輸出を 460 億ドル、貿易黒字 20 億ドル以上とする。
- ・ベラルーシ国内への投資を 360 億ドル以上に引き上げ、輸入代替・国産原材料の使用を推進する。
- ・物価上昇率を 6%以内とする。

(9/21 国営ベルタ通信)

●生活必需品に対する価格統制が年末まで延長

・9/20 付反独占規制・商業省決定第 20 号により、冷凍の魚類、肉・肉製品、牛乳、チーズ、油脂、鶏卵、小麦粉、パン、米、じゃがいも、りんご、にんにく、ベビーフード、塩、茶・コーヒー等の価格が 2021 年いっばい統制対象となる。

・国家統計委員会によれば、過去 12 か月間の物価上昇率は 9.8%で、同時期に食料品の価格は 9.5%増。

(9/24 国営ベルタ通信、ベラパン通信)

●中国・ベラルーシ産業特区「巨石」(Great Stone Industrial Park)に、ベラルーシの IT 企業が入居

IT 企業「データ・クラウド」は、ビッグデータの収集・加工・保管を一体的に行うセンターを設立予定。

(9/21 「巨石」公式サイト)

●中医学の薬草由来の COVID-19 薬生産計画

・9/22、トウルチン・ミンスク市執行委員長(市長)と蔡傳清・金泰文化経済研究院が協力覚書に署名。両者は中国・ベラルーシ産業特区「巨石」(Great Stone Industrial Park)敷地内において、ユーラシア伝統医学文化交流センターの開設及び COVID-19 薬のカプセル生産を目指す。

・同センターは、中医学文化、伝統医学、伝統的な植物薬を使用した医療の連携を推進し、ベラルーシや近隣諸国の医療機関との協力構築も行う予定。

・北京の医薬品メーカー「西山晴雪医薬科技」の協力により、「巨石」内で薬草由来の COVID-19 薬のカプセル生産も予定されている。将来的には、ウクライナ・ロシア・EU 諸国といった近隣諸国への販売や、白樺やたんぽぽといったベラルーシ国産生薬の使用も想定されている。

(9/22 ベルタ通信)

●リトアニア国境警備庁は、ベラルーシからの密輸たばこ 11,000 ユーロ相当を押収。

(9/23 Reform.by、ベラパン通信)

【抗議勢力の動き】

●「世界のベラルーシ人大会」の開催(9/24、25 於：ビリニユス)

・27 か国から 40 団体が参加。チハノフスカヤ民主勢力代表、ラトウシコ「国家危機管理局」代表らが出席。

・チハノフスカヤ氏は、昨 2020 年を通じてベラルーシ人は、自らがベラルーシ人であると自覚するようになったこと、ベラルーシ人相互で様々に助け合い、対ベラルーシ制裁やルカシェンコ体制下でのホッケー世界選手権の中止など具体的な成果を勝ち取っていること等を指摘。

・同氏は今後の課題として、①ベラルーシ国内の同胞への支援を強化し、国内イニシアチブを単発で終わらせないための取り組み、②ルカシェンコ体制に対する経済的圧力の拡大、③ベラルーシ問題を国際社会に認知させ続けること、④在外ベラルーシ人・政治勢力・各種イニシアチブの連携を例示。

・ラトウシコ氏は、ルカシェンコ政権が国内外を戦争状

態に陥れているとした上で、当面の戦略として、①国際社会がルカシェンコ政権を認めないようにすること、②弾圧に荷担した者の責任を問うこと、③対ベラルーシ制裁を強化すること等が重要である旨指摘。

(9/24 チハノフスカヤ氏公式サイト、ベラパン通信)

【その他】

●正教会の全ベラルーシ府主教：反ワクチン言説の拡散に苦言

9/23、ミンスク・ザスラヴリの正教会府主教ベンヤミン(全ベラルーシを管轄)は、COVID-19 ワクチン接種に関し、要旨以下を述べた。

・歴史を通じ、様々なワクチンによって何百万もの人が救われてきた。正教会として、感染症の拡大防止のための措置に対して分別ある対応をするよう呼びかける。

・ワクチンを接種するかしないかは各人が決める事柄。ワクチン接種を拒むことが正教の信仰であるかのような言説は誤り。ワクチンを受けると反キリストの烙印を押されるかのような言説を広めるようなことは許されざる罪深いこと。

(9/23 ベラルーシ正教会、ベラパン通信)

●ベラルーシのインターネット自由度ランキング：31/100点

・米国の非政府組織 Freedom House が 2021 年のインターネット自由度ランキングを発表。ベラルーシは昨年の 38/100 点から 7 ポイント下がって 31/100 点。

・内訳は、アクセスに対する障害が 10/25 点、コンテンツに対する制限が 14/35 点、ネットユーザーの権利の侵害が 7/40 点。

(9/24 Freedom House、Zerkalo)

●科学アカデミー社会学研究所による世論調査結果

ベラルーシ人の民族的アイデンティティに関する調査

調査方法：アンケート方式(複数回答可)

調査対象：ベラルーシ国内各地の 18 歳以上の 2,110 人(18 歳～24 歳 18%、25 歳～44 歳 33%、45 歳～64 歳 30%、65 歳以上 15%)

調査時期：2021 年 4 月

自分にとってベラルーシとは何か

自分の祖国	56.2%
自分が住んでいる国	47.9%
祖先が守ってきた地	34.9%
自分が愛する国	25.3%
自分のものだと感じる国・文化・言語	12.3%

自分にとってベラルーシの愛国主義とは

ベラルーシを愛すること	50.8%
ベラルーシだけに住み、そこで働くこと	31.8%
ベラルーシのためになることを積極的に行うこと	28.4%
ベラルーシ文化・ベラルーシ語を愛すること	27.2%
ベラルーシの国家の表象を尊重すること	23.3%
自らを危険に晒すとしても、ベラルーシを守るという心構え	20.2%
ベラルーシの国益と自分の利益を関連づけること	15.6%

誰を仲間だと考えるか

血縁者・親類	91.7%
友人	84.6%
ベラルーシ人	62.0%
ベラルーシに住む人々	56.8%
旧ソ連圏の人々	37.2%

ベラルーシの人々を結びつけるものは何か

安定し、充足して暮らしたいという願望	55.3%
別個の、独立した国家で暮らしたいという願望	43.5%
歴史的遺産	35.9%
民族としての文化や慣習	34.5%
メンタリティ・性格の特徴	32.6%
民族としての価値観	25.0%
同一の領域に一緒に住んでいること	23.9%
ベラルーシ文化・ベラルーシ語	20.7%

5年後～10年後に、国際社会でベラルーシがどのような国と見られたいか

中立を維持し、いかなる連合やブロックにも入っていない国	26.7%
欧州連合(EU)加盟国	13.7%
ユーラシア経済同盟(EAEU)加盟国	13.7%
回答困難	35.8%

COVID-19 対策に関する調査

調査方法:電話での聴き取り(CATI ASSO)(複数回答可)

調査対象:ベラルーシ国内各地の18歳～60歳の600人～1,050人

調査時期:2020年～2021年

COVID-19 感染拡大に対する懸念

(1が心配していない、5.0が最も心配)

2020/04	3.0
2020/05	2.9
2020/10	2.8
2020/11～12	2.9
2021/3	2.7

ベラルーシの医療体制の COVID-19 対応への評価

	良い	悪い
2020/04	50.3%	35.3%
2020/05	57.6%	25.4%
2020/10	63.6%	23.9%
2020/11～12	51.7%	30.6%
2021/03	67.0%	24.9%

COVID-19 感染拡大の見通し

	良くなる	変わらない	悪くなる
2020/05	41.7%	22.1%	22.3%
2020/10	34.9%	19.0%	27.6%
2020/11～12	46.4%	22.0%	16.1%
2021/03	56.4%	21.0%	8.3%

COVID-19 ワクチンに対する考え方(2021年3月)

肯定的	否定的	回答困難
43.7%	42.8%	13.5%

どのような感染防止措置を講じているか(2021年3月)

公共の場所ではマスクを着用する	93.9%
手洗い・手指消毒を励行する	91.7%
商業施設や公共の場への訪問を控える	55.5%
友人・親族に会うのを控える	48.2%
高齢の方と会うのを控える	46.1%
国外旅行を取り止める	42.1%
公共交通機関の利用を控える	39.7%

ウィズコロナの社会への適応の仕方(2021年3月)

無視:特に気にしない(マスク・手洗い・手指消毒くらいはする)	9.8%
普通:適宜対応する	71.4%
パニック:できることは何でもする	18.8%

(9/21 科学アカデミー社会学研究所、Zerkalo)

(了)